



令和5年4月22日、23日に
宮崎市で開催された
G7宮崎農業大臣会合
ってなんだろう



その1

5月に広島で開催されたG7サミットは、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ、及び欧州連合(EU)の首脳が参加して毎年開催される国際会議です。

世界の経済や、地域の情勢など、その時々地球規模の重要な課題について行動するため、意見交換を行い、その成果を文書にまとめて公表します。

G7広島サミットの前に、各国の農業大臣が集まり、「食料安全保障」をテーマに、「持続可能な農業」について話し合いを行った会議が、G7宮崎農業大臣会合です。

この会合では、「G7農業大臣声明」と、G7各国が取り組むべき行動をまとめた「宮崎アクション」が採択されました。



マンゴー農園の視察風景



令和5年4月22日、23日に 宮崎市で開催された G7 宮崎農業大臣会合 ってなんだろう



その2



各国の農業大臣が宮崎神宮を参拝
前列左から3人目が野村農林水産大臣



マンゴー農園の視察
野村農林水産大臣と各国の大臣



各国関係者が会合の合間に県内農産物を試食



スマート農業の視察のため宮崎農業高校を訪問
軽トラックの自動走行技術などを実演



栽培(さいばい)時の温室効果ガスの削減状況を
星の数で表示「見える化」した農産物の展示



自動収穫(しゅうかく)ロボット(AGRIST株式会社)の展示
労働力不足の解消や農家の収益向上に期待



令和5年4月22日、23日に 宮崎市で開催された G7宮崎農業大臣会合 ってなんだろう



その3

話し合われた「食料安全保障」と「持続可能な農業」

通常の時はもちろんのこと、作物ができない時や輸入ができなくなるなど、予想しない事態になっても、人が生きる上で最低限必要とする食料は確保されなくてははいけません。この「食料安全保障」は国の最も基本的な責務の一つです。

また、将来にわたって食料を安定して供給するために、災害や温暖化に強く、生産者の減少なども考えた、「持続可能な食料システム」をつくるのが大切です。環境にも配慮(はいりょ)し生産力の向上と持続性を両立した農業を目指しています。

まふ・ジョーの一言



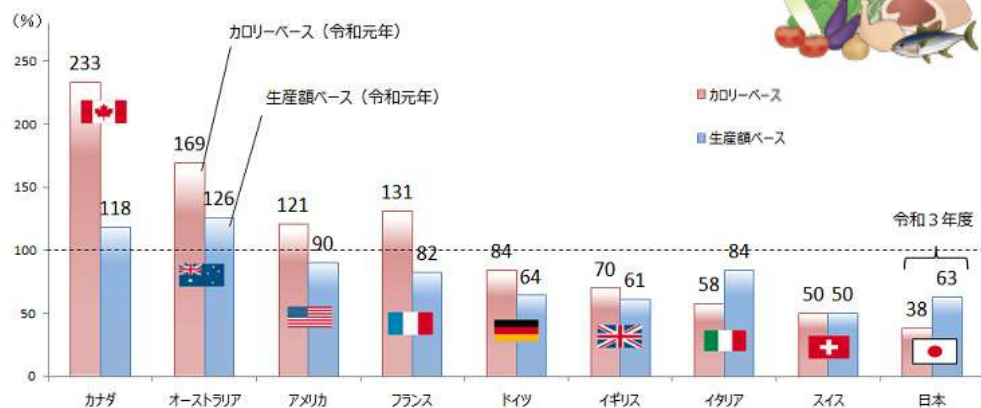
「まふ・ジョー」は、九州農政局宮崎県拠点のものしり君です!

●食料自給率のはなし

私たちが消費した食料のうち、自分の国で作られた割合を表す数字が**食料自給率**です。

日本の食料自給率は、カロリーベースで38パーセント、生産額ベースで63パーセントとなっています。(令和3年度)生命と健康を維持(いじ)するために必要なエネルギーで表したものが「カロリーベース」、作られた食べものの価値をお金で表したものが「生産額ベース」です。

日本は、限られた国土で1億2千万人を養うために、輸入への割合が高いことがわかります。



●我が国と諸外国の食料自給率
(農林水産省ホームページ)